

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書／事後評価書

団体名	公益財団法人鹿児島県文化振興財団
施設名	霧島国際音楽ホール(みやまコンセール)
内定額	1,397 (千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		305	308
年間事業本数（※1）	主催事業	17	15
	公演事業	8	8
	（内、本助成対象事業本数）	0	0
	人材養成事業	3	3
	（内、本助成対象事業本数）	3	3
	普及啓発事業	6	6
	（内、本助成対象事業本数）	2	0
	その他 内容： 記入してください		
貸館日数	ホールごとの貸館日数	65	42
	ホール名： 主ホール 座席数： 770	65	42
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	15,567	16,465
	公演事業	11,827	4,139
	人材養成事業	1,549	757
	普及啓発事業	2,191	12,334
	その他 内容： 記入してください		
	貸館事業入場者・参加者数	9,740	8,315
	その他 内容： 霧島国際音楽祭	9,466	11,638
	計	34,773	36,418
施設の利用率(%)		57.0%	64.7%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設(美術館、図書館等)のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業 本数	公演 回数	入場者・ 参加者数	入場者・ 参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統 芸能	演芸	総合 (※4)	その他
令和5 年度	主催公演(※1)	13	49	13,690	36.2%		12				1	
	共催・ 提携公演(※2)	12	23	9,865	55.7%		10		2			
	貸館公演(※3)	25	25	9,740	50.5%		21				4	
	計	50	97	33,295								
令和6 年度	主催公演(※1)	11	40	16,465	53.4%		10				1	
	共催・ 提携公演(※2)	9	26	6,585	35.6%		7		2			
	貸館公演(※3)	9	9	2,220	32.0%		8		1			
	計	29	75	25,270								

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。
※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業番号	事業名	入場者数	入場者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業						
人材養成事業	受講生の研修後の満足度 受講生の次回への期待度 指導者による評価	アンケートの5段階評価で上位2段階「大変満足した」「満足した」と回答した人が85%以上 アンケートで「次回も参加したい」と回答した人が85%以上 インタビューで概ね好評価を得る／成果と今後の課題を把握する	「大変満足した」と回答した人が24.3%、「満足した」と回答した人が70.3%で、併せて94.6%の人が概ね満足していることが分かった。 「ぜひ参加したい」35.1%、「可能であれば参加したい」64.9%で、ほぼ100%の受講生が次回を期待している。 概ね好評を得るとともに、今後の課題も示された。	満足度、期待度ともに目標値を達成した(アンケート結果より)。「講習により悩みを解決し、理解を深めることができた(大いにできた、できた)」という回答が94.5%、「今後の音楽学習や演奏活動に生かせるか(大いに生かせる、生かせる)」という回答が100%に上ることがアンケート結果より分かった。 また、受講者数がR5年度に比べて20人近く増加し、56人と定員を超えるほどとなった。多くはリピーターの受講生の口コミによるところが大きく、講座の満足度の高さを物語っているといえる。 海老原氏より、記念すべき第10回を鹿児島市内で開催し、より多くのお客様と感動を共有できたことは大きいと好評を得た。今後は、より精度の高い音楽、将来音楽家を目指す学生の育成のために、さらなるプログラムの追求をしていくことが課題である。	◇「みやま出張音楽塾【短期講習型】」では、県内の小学校・中学校・高等学校(計5団体)に特別講師を派遣し、音楽指導が実施された。その結果、当該地域の青少年および指導者における実演芸術の表現力が向上した様子がうかがえた(公演等調査より)。本事業は、県内における音楽愛好家の育成に寄与することが期待され、今後も継続的に実施することが望まれる。 ◇「みやま音楽塾【6ヶ月集中講座】」においては、受講生の満足度および期待度が高く、事前に設定された目標値を上回る成果が確認された。これは、地域のニーズを的確に捉えた内容の講座が実施された結果と評価される。全16回にわたる講座では、受講生の演奏技術向上を目的とした実技レッスンに加え、音楽理論やソルフェージュといった基礎知識の習得、さらには音響や照明などの舞台技術に関する講座も設けられており、これらの学習を通して、地域における芸術文化の担い手の育成に貢献したと認められる。部活動や音楽教室では得がたい経験を提供することにより、地域の芸術文化を支える人材の育成を目指す事業として、さらなる発展が期待される。	
普及啓発事業						

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

「みやま音楽塾」は、令和6年度で10周年を迎え、音楽を幅広く多岐に渡って学ぶ企画として好評を得ており、リピーターも年々増え、カリキュラムも定着している事業である。当ホールの舞台監督及び芸術文化専門員(音楽科教諭経験者)が企画・運営を行う。6カ月間の集中講座として、楽典や音楽史、ソルフェージュなどの講義に加え、当ホールに登録された協力演奏家による実技レッスン、合奏・アンサンブル指導、当ホール常駐の技術スタッフによる音響や照明などの舞台業務体験などの講座を実施した。例年実施している演奏会の企画・運営体験については別ホールの開催となったため今年度はできなかった。令和7年度以降は実施していく予定である。

「みやま出張音楽塾」は、学校及び音楽団体の指導者のスキルアップを支援することを目的としたバンドクリニックである。令和6年度特別講師、海老原光による合奏及び指揮の指導は、それぞれの楽曲の背景や指揮法に基づいたエネルギーな指導で、コンクール前の受講生たちを鼓舞し、短い時間での指導ではあったが、海老原氏の集中力を高めた力みなぎる指導に満足する声が多く得られた。クリニック後の海老原氏による指導者へのフィードバックは、プロの指揮者に日ごろの指導上の悩みや実際の指揮の方法について直接指南を受けることができ、指導者からも好評であった。

両講座は、吹奏楽発祥の地を掲げ、吹奏楽が盛んである本県の状況を踏まえ、特別講師を招聘して吹奏楽の合奏指導をメインとして実施している。「みやま音楽塾」では、修了演奏会でのアンサンブルや吹奏楽の発表に向けて、受講生同士が切磋琢磨し合うことで、演奏力向上や音楽への理解を深め合うことができた。

講座は、複数の練習室等の施設が充実していること、音楽科教諭経験者が常勤していること、85名という多くの協力演奏家が所属していること、舞台技術者が常駐していることなど、当ホールの特性を生かして企画・運営することができた。また、音楽教育及び音楽活動などの担当業務に精通している教員である職員が携わることで、単発の講習会でなく半年間の長期アカデミーという形で実施することが可能となり、他ホールとの差別化を図られている。

「みやま音楽塾」では、今年度より当ホール所有のチェンバロやフォルテピアノなどを紹介する古楽器ツアーを実施した。演奏を鑑賞するほか、楽器に触れてみる体験も行った。また、ヴァイオリンやハープ、箏などを体験する講座を行い、普段ほとんど触れたことのない楽器を体験することができ、たいへん好評であった。さらに、間もなく完成するパイプオルガンについても高い興味をもつ受講者が多く、幅広い音楽体験を求める動機付けとなった。

音楽以外の面でもレクリエーションを行ったり、合宿を行い、寝食を共にしたりすることにより、異年齢集団の中で多くことを学び、さらに受講生同士の絆を深め合うことができた。修了演奏会には多くの県民が来場し、本事業の価値や学びを継続することの大切さを指摘する声が多く挙げられた。修了式では、半年の講座を振り返り、次年度再会を誓い合う姿も多く見られ、本事業の素晴らしさを再認識することができた。

演奏技術の基礎や音楽の基礎理論、舞台運営など、普段の学校や部活動では学べない内容で、受講生の演奏力向上や音楽への理解を深めることにつながった。受講者も中・高生から上は70歳代の社会人まで56名と幅広く得られ、受講生相互の交流を深めながら音楽の楽しさを存分に味わうことができる事業を展開できた。修了演奏会においては、今回は鹿児島市内での開催ということもあり、関係者だけでなく多くの県民に来場いただいたことで、本事業の価値や継続することの大切さを指摘する声が多く挙がった。

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
ミニ・コンサートの子供の参加率(高校生以下)	高校生以下の観客が全体の85%以上	参加者数全体1634人 うち高校生以下1121人(68.6%)	「みやま音楽塾」は、生涯学習として県民に学びの場を提供するだけでなく、演奏技術の基礎や音楽の基礎理論、舞台運営など、普段学校や部活動では学べない内容を学ぶ機会となった。講座を通してスクールバンドや地域の音楽団体で中核として活躍する人材の育成を図ることができた。	◇「みやま音楽アカデミー『みやま音楽塾』」では、特別指導講師として鹿児島県出身で指揮者として活躍する海老原光氏が招かれ、地域の文化資源を活用した事業であると認められる。 また、当該事業の運営にあたっては、鹿児島県から派遣された音楽教諭の資格を有する芸術文化専門員が担当として配置されており、彼らを活用した事業企画・運営が行われていた点も注目すべきである。特に【短期講習型】においては、芸術文化専門員が地域の学校現場や部活動の実情を十分に把握していることから、実効性の高い事業として成功を収めたと考えられる。	
貸館利用者の満足度	80%以上が対応に「満足」「ほぼ満足」と回答	満足度100%(使用者アンケートより15/30件の回答)	参加者数が前年1889人から200人以上減少した。これはパイプオルガン設置に係る工事のため主ホールが半年間使用できなかったことも大きく影響しているものと思われる。高校生以下の割合も目標値を下回った。以前は学校の宿泊的行事と併せて開催される場合が多かったが、コロナ禍を経て行事の見直し等で、提携している近隣の宿泊研修施設「霧島ふれあいセンター」の利用が減ってきていることも考えられる。「ミニ・コンサート」事業の更なる周知を図るとともに、魅力あるコンサートづくりが今後の課題である。 利用者のアンケートでは、施設の管理状態、利用時間、利用料金の設定、職員の対応状況について、全て「とてもよい」との回答があり、目標値を達成した。しかし、当ホールは市街地から離れた立地であり、利用促進に向けて更に広報を行っていく必要がある。	◇自己評定においても指摘されているように、利用者数の伸び悩みの要因の一つとして、ホールの立地条件、すなわち市街地から離れた場所に位置しているという地理的な制約が挙げられている。公共交通機関の利便性やアクセス面での不便さが、来館を妨げている可能性も否めない。 したがって、これらの課題を踏まえ、より積極的かつ戦略的な広報活動の展開が求められる。具体的には、SNSや地域メディアを活用した情報発信の強化、学校・地域団体との連携によるプログラムの周知、またアウトリーチなどを通じて新たな層へのアプローチを図るなど、施設の魅力を効果的に伝える工夫が必要である。施設の利用率向上を通じて、地域における芸術文化の活性化に一層寄与していくことが期待される。	

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

「みやま音楽塾」の受講生は吹奏楽部等の部活動にも参加している学生が大半であり、また、「みやま出張音楽塾」は部活動での参加がほとんどである。こうした取組は今後部活動の地域移行を図る上での一つの指針となりえるものと考える。さらに、受講生がアーティストとして県内外で活躍している事例もあり、音楽文化の発展に寄与している事業の一つであるといえる。 開館当初より始まった歴史ある「ミニ・コンサート」は、時代のニーズにより形を変化させ、今も進化を続けている。さらに、「みやまさてらいとコンサート」は、どんな場所にでも地域にでも等しく優れた文化芸術を届けたいという理念の下、10年以上継続している事業である。当ホールの特色ある事業は、職員の配置等において担当が変わっても、これまで構築してきた組織活動を効果的に活用し、事業運営を続けていくことができる。 県内の音楽関係団体や文化団体・報道機関等のトップで構成される県民有識者による「懇話会」、さらに霧島地域の各機関・団体等と連携を緊密に行う「地域連絡会」を設置し、当ホールの自主事業の事業改善や施設の利用促進を図っている。また、九州類似ホール連絡会に在籍し、他館との意見交換や情報共有を定期的に行っている。

評価項目④: 多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と美演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
アウトリーチ事業の実施数	本館以外でのコンサート25カ所以上	おとどけ35回(奄美大島) さてらいと3回(与論町, 天城町, 徳之島町) 9636人	「みやま音楽塾」は、受講者が中・高生から社会人まで幅広い年代で構成され、異年齢での受講生が相互に交流を深めながら音楽の楽しさを存分に味わうことができる事業を展開できた。特に、合宿での音楽以外の交流は、多くの学びを得るよい機会となっている。講座では音楽の多様性についても感じ取れるよう、自分の専門に限らず幅広く音楽について学ぶことができるように工夫を凝らし、学校の授業や部活動ではなかなか学べない内容も取り入れながら実施することができた。「みやま音楽塾」は、今後は、様々な音楽体験を求める声に応えて、より豊かな音楽体験の場を提供できるように、企画のブラッシュアップを行っていくことが課題である。 おとどけコンサートとさてらいとコンサートで合わせて38回と目標値を達成した。 「おとどけコンサート」は88.5%が学校からの依頼で主に小・中・高校生を対象に行っている。離島を含め、へき地を多く抱える本県ではプロの音楽家を招いて演奏会を開催することは難しい場合が多い。本事業は低予算で日程調整も比較的容易であるにもかかわらず、質の高い本格的なコンサートを開催できることから、学校の芸術鑑賞会において依頼される場合が多い。その他、自治体からの依頼や、鹿児島県教職員共助会からの依頼でスクールコンサートとしても実施している。また、楽器指導の講師として出向くこともある。 令和6年度の「さてらいとコンサート」では、与論島と徳之島(天城町, 徳之島町)を訪れ、自治体の文化祭等の中で実施した。特に離島では本格的なクラシックに触れる機会がなかなかないので、間近で演奏される音楽に多くの聴衆が魅了され、「素晴らしかった。感動した。ぜひまた来てほしい。」といった声が多く寄せられた。	◇「みやま音楽アカデミー『みやま音楽塾』(6ヶ月集中講座)」は、中学生から一般人(70代)まで、幅広い年齢層が参加した事業(意見交換より)であり、多様な背景を持つ受講者が同じ空間で音楽を学ぶことにより、技術の習得にとどまらず、世代を超えた交流が生まれ、音楽を中心としたコミュニティの形成にもつながっていた点は、本講座の成果の一つとして認められる。 ◇また、参加者の居住地について、本講座は当該文化施設が位置する霧島市内に限定されることなく、鹿児島市、姶良市、薩摩川内市など、県内の各地域から広く受講者を集めていた(意見交換より)。こうした広域からの参加は、単に開催地に近い住民だけでなく、県内の多くの音楽愛好者にとっても本講座が魅力あるものであったことを示していると認められる。 ◇このように、地理的な枠を越えて多様な参加者を引き寄せた本講座は、単なる一過性の事業にとどまらず、鹿児島県全体における音楽文化の振興と、その担い手の育成に寄与する中長期的な基盤づくりの一環として位置づけられる。今後も、地域に根差した文化資源を生かしながら、より多くの人々に開かれた学びの場として発展していくことが期待される。	

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

当ホールの職員配置は、職員派遣制度を前提として、財団職員、県派遣職員、霧島市派遣職員及び臨時職員という構成を継続している。あらゆる分野から職員が集まることで、事業を多方面から検証でき、改善方法の提案も多岐にわたり、よい化学変化をもたらしている。派遣期間については、県職員は3～5年、霧島市派遣職員は2～3年を基準としている。事業計画書及び事業報告書の作成、観客アンケートの分析、財団理事会、評議委員会等による事業検証や各種連絡会での意見交換を基に改善を図り、単にこれまでの事業内容や企画を踏襲することなく、様々な人・機関・組織・行政と連携し、Check, Actionを検証しながら次のPlan, Doへと生かしている。

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保)予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	霧島温泉旅館協会と連携し、ホテル等の宿泊客に対する助成を実施している。		助成金対象客数36人 対象公演数5公演 対象宿泊施設7施設	制度の周知広報を積極的に行い、今後とも財源の確保に努める。		
(イ)	(広報・営業力)広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。	財団で各種特典を有する「ミュージクラブ」を設置し、利用促進を図っている。		ミュージクラブ会員数946人	効果的な広報に努め、円滑な事業実施に努めた。		SNSの活用の促進
(ウ)	(他館連携)他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	県連絡協議会等を通じ、他の類似施設との連携を図っている。		年1回の研修会への参加	各ホールの特性に応じた事業実施に努めた。	県内施設との連携を継続することが望まれる。	
(エ)	(設置者)円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。	県と指定管理協定を締結し、財源確保に努めるとともに、円滑な業務遂行のため県などから職員が派遣されている。		県からの派遣職員6名	設置者と連携の上、円滑な事業実施に努めた。	今後も設置者との連携を強化し、スムーズな事業運営に努めていただきたい。	
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督)芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	音楽の教員免許をもつ職員が県から派遣されて舞台監督を務めている。			円滑な事業運営に努めた。		
(カ)	(長期的経営)長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。	財団内に各施設長からなる会議を設置し、長期的な視点に立った経営に努めている。		施設長会議年12回実施	財団内での情報共有等も行いながら適切な施設の管理運営に努めた。	県や市からの派遣職員が多く、比較的異動が多いことから、情報共有を密に行うように今後も努めていただきたい。	
(キ)	(専門人材の確保)今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	音楽科教員が県から派遣されて芸術文化専門員として運営に当たっている他、協力演奏家制度を活用し、人材を確保している。			ミニコンサートでの演奏や音楽塾での指導など協力演奏家を活用し、事業の充実に努めた。		
(ク)	(職制の整理)芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。	教員、行政職員、プロパー職員、それぞれ役割分担の上、事業を実施している。			円滑な事業運営を行うことができた。		
(ケ)	(世代間バランス)年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。	県からの派遣職員及びプロパー職員で構成されている。		県派遣職員6名 市は県職員2名 財団職員4名			
(コ)	(ジェンダーバランス)女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。	県からの派遣職員及びプロパー職員で構成されている。		女性職員 県派遣職員1名 市派遣職員2名 財団職員3名			今年度総務課長、事業課長ともに女性になり、女性管理職比率が高まった。
(サ)	(ワークライフ・バランス)仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	育児・介護等に係る就業規則等を整備し、ワークライフバランスの向上を図っている。			今後とも取得しやすい環境整備に努めていく。		
(シ)	(コンプライアンス順守)情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。	財団の情報セキュリティに係るマニュアル等を整備するとともに、職員に対する研修等も実施している。		年1回実施	財団が定める個人情報保護方針に基づき適正な運用に努めた。	引き続き、研修等の実施により適切な運用が望まれる。	
(ス)	(ハラスメント防止対策)職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	財団のハラスメント等防止に係る就業規則等を踏まえ、職場研修等を実施している。		年1回実施	今後とも働きやすい環境整備に努めていく。	職員が働きやすい職場環境の維持に向けて、研修等を適切に継続的に実施していただきたい。	
(セ)	(適正な契約事務)アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。	契約書の様式を定め相手方と協議の上、適切に対応している。			今後とも適正な運営に努めていく。		

4. 総評

・ 団体の自己評価

当館のミッションやビジョンを踏まえた自主事業を展開し、そのすべての活動において、概ね当初の目標を達成することができた。

◆人材育成事業においては「みやま音楽塾」、「みやま出張音楽塾」ともに、受講生から好評を得ることができた。

◆特に「みやま音楽塾」では、6か月に渡る長期講座の特色を生かして、講座で学んだ成果を修了演奏会という形で発表することができ、受講生から高い満足感を得ることができた。リピーターも多くなっており、企画内容のブラッシュアップは今後の課題である。

◆また、助成対象事業ではないが、当館のビジョンの実現のために「おとどけコンサート」や「さてらいとコンサート」を実施したことで、更なる成果をあげることができた。

◆一方で、運営面についてはホールの立地が大きな課題である。コンサートや事業に合わせてバスの運行を行っているが、多くの集客につなげられるよう、今後は更に魅力ある企画を練り上げ、積極的に広報活動を行っていく必要であると考えている。

◆以上のことから、来年度以降は「みやま音楽塾」や「みやま出張音楽塾」といった音楽アカデミー事業を更に充実させ、「おとどけコンサート」や「さてらいとコンサート」などのアウトリーチ事業も継続すると共に、立地面での課題を克服できるよう、予算面等考慮しつつ、魅力ある事業の企画・運営に取り組んでいきたい。

・ 所見

◇みやま音楽アカデミー「みやま音楽塾」は、「出張音楽講座(短期講習型)」と「6か月集中講座」の2本立てで構成されており、いずれの講座も、音楽に興味関心を持つ青少年や音楽愛好家を対象とし、音楽を通じて表現力や文化的な素養を高める効果的な内容で実施された。

特に受講生から寄せられたアンケート結果や現場での反応からは、講座内容への高い満足度がうかがえ、当初想定された成果を上回る効果が得られていることが確認された。このような点からも、本事業は地域における音楽文化の振興と、その担い手となる人材の育成に大きく寄与する取り組みであると評価され、今後も継続的かつ発展的な実施が望まれる。

◇助成対象外事業ではあるが、団体からの申し込みにより当該ホールを会場として実施する「ミニ・コンサート」や、離島を含む県内各地域で行う「さてらいとコンサート」といった事業をとおして、音楽をより多くの人々に届けることを可能とした。

◇当該ホールにおける事業運営体制には大きな特色がある。それは、小学校・中学校・高等学校の現役の音楽教諭が、鹿児島県教育委員会から芸術文化専門員として派遣され、事業に直接関与している点である。このように現場経験を有する教諭が中心的役割を担うことで、地域の教育現場や音楽環境に即した、きめ細やかで実効性の高い事業展開が可能となっている。今後も、この体制の強みを最大限に活かしながら、県内各地域のニーズに応じた多様な音楽事業の展開を継続することが望まれる。

◇当該ホールの主ホールは、令和6年10月1日から令和7年5月31日までパイプオルガンの設置工事のため長期休館であった。再開後は新たに導入されたパイプオルガンを活用するとともに、これまでの文化事業の蓄積を活かしながら、県民に親しまれる文化施設として、より一層魅力ある芸術文化発信拠点として再始動することが期待される。